

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<生命科学・社会医学系>

基礎上級…………… 別 途

<臨床医学系>

臨床薬理学……………4- 1

性差医療……………4- 2

麻酔……………4- 3

腫瘍内科学……………4- 4

医療と法……………4- 5

救急・災害医療……………4- 6

老年医学……………4- 7

臨床遺伝学……………4- 8

<総合教育>

医療入門 I

・症候論とケーススタディ
……………4- 9

・臨床実習入門……………4-10

・医療と社会……………4-11

・プライマリ・ケアと地域医療……………4-12

社会的コミュニケーション……………4-13

男女共同参画……………4-14

医療入門 II……………4-15

【担当責任者】鳥羽 衛

【連絡先】薬剤部 DI 室(外線 024-547-1406 , 内線 3078)

* 上記連絡先が不通の場合の連絡先 (024-547-1211 , 内線 3073)

【開講年次】4 年, 【学期】前期, 【必修/選択】必修, 【授業形態】講義

【概要】薬物治療は疾患治療の大きな柱である。近年, 科学の発展に伴い、顕著な薬効を示す薬や, 新しい作用機序をもつ特徴のある薬が次々に開発され、多くの疾患ならびに治癒困難であった疾患も治癒可能になってきている。それに伴い有害作用(副作用)も起こりやすくなっており、また人口の高齢化により、複数疾患を有する患者が増加し、多剤併用による相互作用の発生頻度も高くなっている。医薬品の選択や、投与量、投与方法の決定など、従来医師の経験や勘に頼っていた「さじ加減」では対応困難となってきている。一方、リスクマネジメントの観点からみると、医薬品が関連する医療事故が非常に高い割合を占めてきている。

以上のことより、医薬品適正使用の実践には、まず1つめに処方ルールの基本を理解し、正確に処方せんを発行できることが必要となる。2つめに、科学的な薬効評価によって薬の適応を決定し、疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な処方決定することが必要となる。具体的には、医薬品情報(特に医薬品添付文書)の入手方法、剤形と薬物動態関係、副作用、相互作用、血中濃度のモニタリング等を理解し、処方発行の際、必要となる基本的な知識を習得することが求められる。またがんが国民の疾病による死亡の最大原因となっている現状および「がん対策基本法」の施行を考慮し、特に重要と考えられる「抗がん剤」使用時の留意点ならびに疾病の治療とともに重要となる患者 QOL の向上に寄与する疼痛緩和に関して、使用する医薬品の使い方と使い分けについても学ぶ。

【学習目標】

- 1) 剤形(投与方法)を列挙し、その薬物動態を説明できる。
- 2) 処方せんのルールを理解し、正しい処方せんを作成できる。
- 3) 副作用を分類し、副作用報告をどのように行うのか説明できる。
- 4) 相互作用を分類できる。
- 5) 処方時参考とする基本的な医薬品情報の収集ができる。
- 6) がん患者へ用いる抗がん剤の使用時の留意点を説明できる。
- 7) 疼痛緩和薬の選択と使用方法について理解し、処方に適切に反映できる。

【教科書】特に指定しない。各回、関連する資料を配付する

【参考書】

- ・薬物治療学 第10版 吉尾隆ほか 南山堂
- ・標準薬剤学 改訂第4版 渡辺善照ほか 南江堂
- ・緩和治療薬の考え方、使い方 ver. 3 森田達也 中外医学社
- ・PMDA（医薬品医療機器総合機構）のホームページ 【 <https://www.pmda.go.jp> 】
- ・医薬品情報学 第5版 山崎幹夫ほか 東京大学出版会
- ・薬をもっと使いこなすための添付文書の読み方・活かし方 野村香織 じほう

【成績評価方法】

- ・毎回の講義後に実施する講義内容に関する豆テスト、定期試験、規定に基づく出席日数により総合的に評価する。
- ・出席については、規定に基づき原則として、講義（あるいは演習）は2／3以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

- ・不明な点は講義中であっても積極的に質問し、確認すること。

【垂直的統合授業の実施内容】 なし

【水平的統合授業の実施内容】 なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 なし

【授業スケジュール】

鳥羽 衛（公立大学法人福島県立医科大学附属病院薬剤部副部長・医学部助教）

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	23/5/23	火	4	(講)「剤形と処方箋の書き方(1)」 剤形、薬物動態、処方箋様式	鳥羽 衛
2	23/5/23	火	5	(講)「剤形と処方箋の書き方(2)」 処方上の留意点	鳥羽 衛
3	23/5/30	火	4	(講)「剤形と処方箋の書き方(3)」 間違いやすい処方	鳥羽 衛
4	23/5/30	火	5	(講)「医薬品情報」 添付文書、医薬品インタビューフォーム	鳥羽 衛

5	23/6/6	火	4	(講)「副作用」 副作用、重篤度分類、自主報告	鳥羽 衛
6	23/6/6	火	5	(講)「医薬品相互作用・TDM」 薬物相互作用、抗菌薬 TDM	鳥羽 衛
7	23/6/13	火	4	(講)「疼痛緩和」 オピオイド、用量換算	鳥羽 衛
8	23/6/13	火	5	(講)「抗がん剤使用時の留意点」 抗がん剤、レジメン、曝露、安全使用	鳥羽 衛
9	23/6/14	水	4	(講)「医薬品開発と治験(1)」 治験、IRB、CRC、医師主導治験	鳥羽 衛
10	23/6/14	水	5	(講)「医薬品開発と治験(2)」 治験、IRB、CRC、医師主導治験	鳥羽 衛

【担当教員】

教員氏名	職	所属
鳥羽 衛	副部長兼医学部助教	附属病院 薬剤部

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 知識とその応用	
<p>基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。</p>	

1)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	△	習得の機会が

		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	△	あるが、単位認定に関係ない
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	△	
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	●	

科目・コース（ユニット）名： 性差医療 【医学4】
英語名称： Gender-specific medicine

【担当責任者】小宮 ひろみ

【連絡先】hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】前期 【必修／選択】必修

【授業形態】講義

【概要】性差医療とは性差とライフステージを意識した医療である。本講義は性差の構築、性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また病態に焦点をあて、性差医療の重要性を講義する。さらに性差医療の特徴である Narrative based medicine (NBM) についてその必要性を考える。また、女性外来では漢方療法が頻用されており、その有用性についても講義する。

【学習目標】

- 1) 性差を決定する染色体、性ホルモン、内外性器、ジェンダーに関してその特徴を説明できる。
- 2) 性差医療の概念と歴史・背景を説明できる。
- 3) 心疾患、高血圧、脂質異常症、メンタルヘルス、骨粗鬆症の病態における性差の特徴を説明できる。
- 4) 性差医療における NBM と漢方療法の有用性を理解する。

【教科書】指定しない

【参考書】

Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA

性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 じほう

性差医療 性差医学が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)

【成績評価方法】

講義内容における知識が身についたかを確認するため期末試験（筆記試験）を行う。また、提示した課題に関して自分で調べたことをまとめたレポートを提出してもらう。成績は期末試験（筆記試験）とレポート両方で評価を行う。出席については、講義において、原則として3分の2以上出席が必要である。

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】該当なし

【水平的統合授業の実施内容】該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/5/23	火	6	(講) 性差医療の概念・歴史・背景	小宮ひろみ
2	2023/5/30	火	6	(講) 性差の構築①(基礎医学的観点から)	諸橋憲一郎 小宮ひろみ
3	2023/6/6	火	6	(講) 性差の構築②(臨床医学的観点から)	小宮ひろみ
4	2023/6/13	火	6	(講) 男性側からみた性差医療	小川総一郎 小宮ひろみ
5	2023/6/23	金	6	(講) 心疾患と性差	嘉川亜希子 小宮ひろみ
6	2023/6/23	金	7	(講) 高血圧・脂質異常症と性差	天野恵子 小宮ひろみ
7	2023/6/30	金	6	(講) メンタルヘルスと性差	丹羽真一 小宮ひろみ
8	2023/7/7	金	6	(講) 骨粗鬆症と性差	小宮ひろみ
9	2023/14	金	6	(講) Narrative based medicine 性差外来 女性医療と漢方療法について	小宮ひろみ

【担当教員】

教員氏名	職	所属
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学附属病院 性差医療センター
諸橋憲一郎	客員教授	久留米大学医学部 (九州大学名誉教授)
嘉川亜希子	内科部長	鹿児島大学 上山病院
小川総一郎	准教授	福島県立医科大学泌尿器科学講座
天野恵子	顧問	静風荘病院
丹羽真一	特任教授	会津医療センター心身医療科

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
4. 知識とその応用			
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。			
1)	医療を実行するための知識 (準備教育モデル・コアカリキュラム参照)	① 生命科学を理解するための基礎知識 1) 染色体の性決定機序を説明できる 2) 内外性器の性決定要因を説明できる 3) 性ホルモンが性差に果たす役割を説明できる 4) ジェンダーの概念を説明できる	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	① 生命現象の科学(細胞と生物の進化) (1) 遺伝的性決定・性分化を経て性差構築のプロセスを概説できる (2) 全ての細胞が性をもつことを理解できる	●
		② 個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝 (1) 精巣と卵巣の解剖、発生を説明できる (2) 性ホルモンの制御機構を説明できる (3) 男性ホルモンと女性ホルモンの作用を説明できる (4) 性ステロイドの合成経路を説明できる	●
		③ 個体の反応(微生物、免疫・防御、薬物)	
		④ 病因と病態(遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍)	
		⑤ 人の心理と行動、コミュニケーション (1) Narrative based medicineを理解できる	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		<p>人体各器官の疾患 診断、治療</p> <p>⑥ (1) 心疾患と性差について説明できる (2) メンタルヘルスと性差について説明できる (3) 泌尿器科疾患と性差について説明できる (4) 骨粗鬆症と性差について説明できる</p>	●	
		<p>全身性疾患の病態、診断、治療</p> <p>⑦ (1) 高血圧・脂質異常症と性差について説明できる (2) 更年期症候群及びLOH症候群について説明できる</p>	●	
		<p>全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）</p> <p>⑧ (1) 思春期 性成熟期 更年期 老年期の心身における性差の特徴を概説できる</p>	●	
		⑨ 疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩ 診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)		
5. 診療の実践				
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。				
1)	病歴収集	<p>① 患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。</p> <p>(1) Narrative based medicine を実践しながら、病歴を適切に聴取することができる</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	① 鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。		
3)	検査の選択・結果解釈	① 頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。		
4)	臨床推論・鑑別	① 得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。		
5)	診断と治療法の選択	① 適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。		

6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。		
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。		
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。		
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		

7. 医学/科学の発展への貢献

総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		
2)	福島から世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。		
		②	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。		

科目・コース（ユニット）名： 麻酔
英語名称： Anesthesiology

【担当責任者】井上聡己、【分野担当責任者】黒澤伸、小原伸樹、箱崎貴大、中野裕子、大石理江子

【連絡先】麻酔科学講座 内線 2464、masui@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年、【学期】前期【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】麻酔科学は、麻酔、集中治療（救急医療）、ペインクリニック、ならびに緩和医療など幅広い知識と技術が要求される広範囲の診療分野を扱う。したがって、上記の一見かけ離れた診療分野の疾病に共通する臓器・組織機能の恒常性の破綻と痛みの病態生理を理解し、その上でこれらに対処する手法を学ぶ。

【学習目標】

1. 全身麻酔法および麻酔器の構造について基本的な説明ができる。
2. 吸入麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
3. 静脈麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
4. 筋弛緩薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
5. 麻薬、鎮痛薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
6. 局所麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
7. 各種神経ブロック法、硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔法について基本的な説明ができる。
8. 各種痛み疾患および術後痛の発生機序と鎮痛法について基本的な説明ができる。
9. 麻酔・手術に伴う生理的变化（神経、呼吸、循環、内分泌、代謝、体液など）について基本的な説明ができる。
10. 呼吸器、循環器、内分泌・代謝疾患、神経筋疾患などの患者の麻酔・集中治療について基本的な説明ができる。
11. 小児および妊産婦の麻酔について基本的な説明ができる。

【教科書】

標準麻酔科学（2017）稲田 英一 / 森崎 浩 / 西脇 公俊編 医学書院

【参考書】

1. 麻酔ポケットマニュアル（2016）中尾慎一編、中山書店
2. Basics of Anesthesia, 7th ed (2018) Pardo MC & Miller RD 編 Elsevier

【成績評価方法】

原則として 3 分の 2 以上の出席と筆記試験により総合的に評価される。

【学習上の注意事項】

1. 講義中は静粛にし医学生たる態度で真摯に講義を聴講すること。
2. 講義では重点的なことを取り上げ、不足分は自学・自習を原則とする
3. 学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。

【垂直的統合授業の実施内容】

特に設けていない

【水平的統合授業の実施内容】

特に設けていない

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

一部の分野において外部講師を招き最新の医療情報について講義していただく。特に小児麻酔分野とペインクリニック分野。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/5/22	月	4	(講) 吸入麻酔薬	黒澤 伸
2	2023/5/22	月	5	(講) 麻酔と呼吸・呼吸器外科の麻酔	黒澤 伸
3	2023/5/22	月	6	(講) 麻酔と内分泌・内分泌疾患の麻酔	黒澤 伸
4	2023/5/26	金	2	(講) 局所麻酔薬・神経ブロック	中野 裕子
5	2023/5/26	金	3	(講) ペインクリニック	中野 裕子
6	2023/5/29	月	4	(講) 全身麻酔薬の臨床薬理	小原 伸樹
7	2023/5/29	月	5	(講) 静脈麻酔薬	小原 伸樹
8	2023/5/29	月	6	(講) 麻酔と循環・心臓血管外科の麻酔	小原 伸樹
9	2023/6/5	月	4	(講) 輸液・消化器疾患の麻酔	黒澤 伸
10	2023/6/5	金	5	(講) 麻酔器・麻酔と安全管理	井上 聡己
11	2023/6/5	金	6	(講) 麻薬・鎮痛薬	井上 聡己
12	2023/6/7	月	6	(講) 硬膜外・脊髄くも膜下麻酔、産科麻酔	大石恵理子
13	2023/6/9	金	1	(講) 麻酔と脳神経・脳神経外科の麻酔	井上 聡己
14	2023/6/9	金	2	(講) 筋弛緩薬・神経筋疾患の麻酔	井上 聡己

15	2023/6/9	金	3	(講) 小児麻酔	鈴木 康之
16	2023/6/12	月	4	(講) 気道確保	箱崎 貴大
17	2023/6/12	月	5	(講) 集中治療医学概論	箱崎 貴大
18	2023/6/12	月	6	(講) 酸素療法・人工呼吸法	箱崎 貴大
19	2023/7/5	月	6	(講) 術後痛とその対策	大石恵理子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
井上 聡己	主任教授	麻酔科学講座
黒澤 伸	教授	麻酔科学講座
小原 伸樹	准教授	手術部
箱崎 貴大	講師	集中治療部
中野 裕子	助教	麻酔科学講座
大石恵理子	助手	麻酔科学講座
鈴木 康之	臨床教授	東京女子医科大学麻酔科

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	△	習得の機会はあるが、単位

					認定には関係ない
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		③	利益相反について説明できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	習得の機会はあるが、単位認定には

					関係ない
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
	医療を実行するための知識（※②～⑩はコアカリキュラム参照）	③	麻酔科学に必要な個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝を理解する	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		④	麻酔科学に必要な個体の反応（微生物、免疫・防御、ストレス、薬物）を理解する	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	麻酔科学に必要な病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治療、腫瘍）を理解する	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑦	麻酔科学に必要な人体各器官の疾患 診断、治療を理解する	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である

					示せることが単位認定の要件である
		⑧	麻酔科学に必要な全身性疾患の病態、診断、治療を理解する	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論し麻酔計画を立てられる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
5)	診断と治療法の選択	①	適切な麻酔法の選択、麻酔計画が立案できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。特に気道確保についての理解を深める。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
7. 医学/科学の発展への貢献					

総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない

科目・コース（ユニット）名：腫瘍内科学【医学4】
英語名称：Medical Oncology

【担当責任者】佐治重衡

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必須, 【授業形態】講義

【概要】日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんに薬物療法を用いた治療が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的に行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されてきたことから、当科ではがんの病態を理解し、がんに対する薬物療法を中心としたさまざまな治療やケアを学ぶことを目標とする。

【学習目標】

1. がん薬物療法に用いられる薬剤の作用機序、治療適応を決定する検査について説明できる。また、がんの成り立ちや、臨床試験についても説明することができる。
2. 薬剤による治療の有害事象とその評価方法 (CTCAE など)、対処法が理解できる。
3. 腫瘍内科で治療を行っている代表的な癌腫における治療戦略について説明できる。
4. がん患者による講義を通して、身体的・精神的・社会的苦痛に共感することができる。

【教科書】特に指定しない。授業開始前までにあらかじめ配布する講義資料を準備して、授業に参加すること。

* 『医学教育モデルコアカリキュラム E-3 腫瘍』は事前に読んでおくこと。
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

【参考書】 入門腫瘍内科学 南江堂
がん診療レジデントマニュアル 医学書院
がんがみえる メディックメディア

【成績評価方法】出席日数は総授業数の2/3以上の出席を必要とする。
成績は筆記試験・出席日数により総合的に評価する。

【垂直的統合授業の実施内容】特定のテーマに関して、総合科学、基礎医学、社会医学、臨床医学の各野のいくつかを跨ぐ統合的授業

【水平的統合授業の実施内容】該当なし

【学習上の注意事項】

能動的に講義に臨むこと。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

当科では多くの国際共同臨床試験や医師主導臨床試験に参加していることもあり、第1回、第5回の授業においてエビデンスのとらえ方、治療効果判定法、有害事象の評価法、統計学的な解釈、臨床試験の開発法に加え、がん診療の臨床における最新の知見も含めた授業を行う。さらに今後医師として臨床試験・治験などにおける中心的な役割者として参加できるような内容を指導する。

また、第2回の授業においては、がん治療を経験された患者さんを講師にむかえることで、がん患者の言葉に直接触れることのできる授業を行う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/5/24	水	4	(講) 総論 がん薬物療法	佐治重衡
2	2023/5/24	水	5	(講) 特別 がん患者さんからのメッセージ	鈴木牧子 佐治重衡
3	2023/5/24	水	6	(講) 各論 がんの症状緩和	名取 穰
4	2023/5/31	水	4	(講) 各論 腫瘍と遺伝	徳田恵美
5	2023/5/31	水	5	(講) がんの臨床試験について	木村礼子
6	2023/6/7	水	4	(講) 各論 がん薬物治療各論	佐々木栄作
7	2023/6/7	水	5	(講) 各論 造血器腫瘍の考え方	野地秀義

【担当教員】

教員氏名	職	所属
佐治重衡	教授	腫瘍内科学講座
徳田恵美	講師	腫瘍内科学講座
佐々木栄作	病院助手	腫瘍内科学講座
木村礼子	助教	腫瘍内科学講座 / 臨床腫瘍センター
名取 穰	助教	腫瘍内科学講座
鈴木牧子	非常勤講師	「ひいらぎの会」代表世話人
野地秀義	臨床教授・病院長	腫瘍内科学講座・福島南循環器科病院

【医師として実務経験のある教員による授業科目】 全て該当。

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。		
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。		
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリキュラム参照）	①	生命科学を理解するための基礎知識	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	①	生命現象の科学（細胞と生物の進化）	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝		
		③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）		
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）		

		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション		
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療		
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療		
		⑧	全身におよぶ生理的变化（成長と発達、加齢・老化と死）		
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)		
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。		
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。		
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。		
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。		
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。		
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		

10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		

科目・コース（ユニット）名：医療と法

英語名称：Medical Law

【担当責任者】藤野美都子

【連絡先】mfujino@fmu.ac.jp

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

医事法学とは、医療取り巻く様々な法的問題を対象とし、これを考察する学問である。人の生命・健康に直接関わる医療に対しては、様々な観点から法的な規制が加えられている。適切な医療を確保するために、医療関係者と医療施設について法的規制が行なわれている。さらに、すべての人に医療が行き渡るように医療保険制度が整備されている。授業では、まず、医療をめぐる法制度について概説する。次に、医療事故をめぐる諸問題について、具体的事例に即して検討する。

授業では、受講生が、患者の権利を保障する医療を実現するために法制度はどうあるべきかという問題関心を持ち、具体的な諸問題について考えることができる場を提供したい。

【学習目標】

一般目標

- 1) 患者の権利を保障する医療を実現するために必要とされる法的知識を身につけ、これを使いこなす力を修得する。
- 2) 患者の権利を保障する医療を実現するために様々な問題に対処できる法的なものの見方を修得する。

到達目標

- 1) 患者の権利の内容と、患者の権利を保障する意義について説明できる。
- 2) インフォームド・コンセントの定義とその意義について説明できる。
- 3) 医療関係者・医療施設に関する法的規制について説明できる。
- 4) 医師の公法上の義務と契約上の義務について説明できる。
- 5) 医療過誤における医師の法的責任について説明できる。
- 6) 医療保険制度について説明できる。
- 7) 患者の権利を保障する医療について、自ら考えることができる。

【教科書】手嶋豊『医事法入門（第6版）』有斐閣・2022年

【参考書】『医事法判例百選（第2版）』（有斐閣・2014年）

【成績評価方法】

- ・ 授業への参画態度（50点）+課題（50点）

授業参画態度は、毎時間の質問・意見表明、提出するコメントにより評価する。

授業終了後に、医療過誤に関する判決を読む課題（50点）を課す。

- ・ 規程に基づき、3分の2以上の出席者を評価対象とする。

【学習上の注意事項】

受講生が「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、医事法を学ぶ上で、医療を取り巻く社会状況に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて情報を収集し、今日の社会状況に関する理解を深めることを期待します。

【垂直的統合授業の実施内容】

3年次開講の医療情報学の知識を前提に、保険診療が直面する法的課題、診療情報の保護等について学ぶ。

【水平的統合授業の実施内容】

該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	23/6/28	水	4	（講）講義案内・医事法入門：医療行為の正当性	藤野
2	23/6/28	水	5	（講）患者の権利：医療の主体としての患者・患者の権利に関するリスボン宣言	藤野
3	23/7/5	水	4	（講）インフォームド・コンセント：ICをめぐる判例の動向・オンライン診療・AI活用診療をめぐる法的問題点	藤野
4	23/7/5	水	5	（講）医療関係者の法規制：医師法、保健師助産師看護師法など	藤野
5	23/7/11	火	2	（講）医療施設の法規制：医療法など	藤野
6	23/7/11	火	3	（講）医療安全に関する法規制：医療法	藤野

7	23/7/12	水	5	(講) 医師の権利・義務：公法上の義務と契約上の義務	藤野
8	23/7/12	水	6	(講) 感染症対策について (仮)	秋野公造
9	23/7/18	火	2	(講) 医療過誤①：医療過誤における医師の法的責任	藤野
10	23/7/18	火	3	(講) 医療過誤②：医療過誤における医師の法的責任	藤野
11	23/7/25	火	2	(講) 医療保険制度：混合診療の法的問題	藤野
12	21/7/25	火	3	(講) 診療情報の保護：診療情報の利用と個人情報の保護	藤野

【担当教員】

教員氏名	職	所属
秋野公造	参議院議員	
藤野美都子	非常勤講師	人間科学講座 (生命倫理学分野)

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

7月12日(仮予定)の秋野公造先生(医師・国会議員)担当授業

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。

4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		③	利益相反について説明できる。		
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	—	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	—	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	—	

3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。

②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

科目・コース（ユニット）名：救急・災害医療
英語名称：Emergency and Disaster Medicine

担当責任者：伊関 憲、小野寺誠、塚田泰彦

連絡先：024-547-1581（内線 2531）qq99@fmu.ac.jp

開講年次：3、4年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義

概要：救急医療は医療の原点であり、全ての医師が現場での確な診断、治療が要求される。救急医学の講義では生体侵襲に対する対応を理解し、呼吸・循環・意識障害ならびに外傷、中毒、熱傷などについて迅速な診断・治療方針を含めた初期治療を学習する。

さらに、ドクターヘリやドクターカーを用いた病院前救護体制や災害医療体制についても理解する。本講義は3年前期に救急総論を講義して、4年前期に救急の各論を講義する。

学習目標：

1. 救急医療システムについて概説できる。
2. 救急患者の緊急度、重症度を説明できる。
3. 呼吸不全、循環不全、意識障害の病態、診断、治療を説明できる。
4. 熱傷、外傷、急性中毒、環境異常（熱中症など）の病態、診断、治療法を説明できる。
5. 特殊感染症の病態、診断、治療法を説明できる。
6. 心停止次の診断および蘇生法をEBMに基づいて学習し、Basic Life Support (BLS)とAdvanced Cardiovascular Life Support (ACLS)について説明できる。
7. 緊急性の高い疾患の画像検査を列挙しその適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
8. 災害医療の基礎およびその特殊性を理解できる。

教科書：

（推奨）日本救急医学会監修：救急診療指針改訂第5版（へるす出版）

参考書：

改訂外傷初期診療ガイドライン（へるす出版）

AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020

DMAT 標準テキスト（へるす出版）

成績評価方法：出席日数（2/3以上の出席が必要）、筆記試験等により総合的に判定される。3年次に行う救急総論の講義は4年次に各論と併せて筆記試験を行う。

学習上の注意事項：指定したテキストのどちらかを講義に持参すること。講義でコアカリキュラムに含まれるすべての内容を網羅することはできないため指定された教科書を用いて自学自習すること。

その他（メッセージ等）：筆記試験で再試になったものに対しては、指定された教科書を購入した学生を対象として行う。

科目・コース（ユニット）名：救急・災害医療
 英語名称：Emergency and Disaster Medicine

垂直的統合授業の実施内容：2年次に学習した解剖学・生理学・病理学・薬理学など基礎医学で学習した内容が、救急医学の講義で臨床的な内容として学習する。また、1年次の人体機能学概論における心肺蘇生実習で行った内容を講義でその理論を学習する。

水平的統合授業の実施内容：循環器内科や呼吸器内科など内科系や、外科、整形外科、脳神経外科などの外科系の講義を統合して救急医学の講義を理解する必要がある。

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：福島県では東日本大震災を経験し、特色のある救急・災害医療を展開している。また、本学附属病院には、ドクターヘリが東北で最も早く導入された。これらについても解説を行う。救急医として日本を代表する診療を行っている非常勤講師による特別講義

授業スケジュール／担当教員等：

回数	月日	曜日	時限	時間	項目	指導教官
3年						
1	4月12日	水	2	9:50-10:50	救急疾患の診察・鑑別	伊関 憲
2	4月12日	水	3	11:00-12:00	意識障害	伊関 憲
3	4月19日	水	1	8:40-9:40	呼吸不全	反町 光太郎
4	4月19日	水	2	9:50-10:50	循環不全・ショック1	反町 光太郎
5	4月19日	水	3	11:00-12:00	循環不全・ショック2	反町 光太郎
4年						
6	5月25日	木	4	13:00-14:00	外傷総論	菅谷一樹
7	5月25日	木	5	14:10-15:10	外傷各論	菅谷一樹
8	5月26日	金	4	13:00-14:00	BLS	伊関 憲
9	5月26日	金	5	14:10-15:10	ACLS	伊関 憲
10	5月26日	金	6	15:20-16:20	蘇生	伊関 憲
11	6月1日	木	4	13:00-14:00	人工呼吸と血液浄化法	岩渕 雅洋
12	6月1日	木	5	14:10-15:10	救急医療システム	田勢 長一郎
13	6月2日	金	4	13:00-14:00	環境異常（熱中症など）	鈴木 剛
14	6月2日	金	5	14:10-15:10	熱傷・電撃傷	鈴木 剛

科目・コース（ユニット）名：救急・災害医療
 英語名称：Emergency and Disaster Medicine

15	6月2日	金	6	15:20-16:20	重症特殊感染症	佐藤 ルブナ
16	6月8日	木	4	13:00-14:00	中毒 I	伊関 憲
17	6月8日	木	5	14:10-15:10	中毒 II	伊関 憲
18	6月15日	木	4	13:00-14:00	災害医療総論	塚田 泰彦
19	6月15日	木	5	14:10-15:10	災害医療各論	塚田 泰彦
20	6月15日	木	6	15:20-16:20	腹部救急疾患	小野寺 誠

担当教員一覧

教員氏名	職	所属
伊関 憲	主任教授	救急医療学講座
小野寺 誠	教授	地域救急医療支援講座
塚田 泰彦	学内講師	救急医療学講座
鈴木 剛	助手	救急医療学講座
岩淵雅洋	助教	救急医療学講座
菅谷一樹	助手	救急医療学講座
田勢 長一郎	特任教授	医療エレクトロニクス研究講座
反町 光太郎	非常勤講師	総合会津中央病院外傷再建外科
佐藤ルブナ	非常勤講師	東京医科歯科大学病院感染制御部

医師として実務経験のある教員による授業：救急医療の医師として実務経験のある教官が実施する。

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 生涯教育	
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。	

1)	科学的情報の収集・評価・管理	① 情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
4. 知識とその応用				
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。				
		(1) 全身症候学 1) 意識障害 1-1) 意識障害の原因と病態生理を説明できる。 1-2) 意識障害をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 1-3) ショック状態にある患者の治療の要点を説明し、初期治療を概説できる。 2) ショック 2-1) ショックの原因と病態生理を説明できる。 2-2) ショックをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 2-3) ショック状態にある患者の治療の要点を説明し、初期治療を概説できる。 3) 呼吸不全 3-1) 呼吸不全の原因と病態生理を説明できる。 3-2) 呼吸不全をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。 3-3) 呼吸不全にある患者の治療の要点を説明し、初期治療を概説できる。 4) 緊急性の高い疾患に対して必要な画像診断ができる。		基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。

		(1) 救急各論 1) 外傷の病態生理、症候、診断、治療を説明できる。 2) 急性中毒における中毒起因物質ごとの病態生理、症候、診断、治療を説明できる。 3) 熱傷の病態生理、症候、診断、治療を説明できる。 4) 環境異常（熱中症など）の病態生理、症候、診断、治療を説明できる。 5) 感染症、敗血症の病因、病態生理、症候、診断、治療を説明できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）				
A 医学、医療、保健，福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。 B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。				
1)	医療と地域	③ 1) 病院前救護体制（ドクターヘリなど）の活動を理解できる。 2) 消防機関の活動と地域の一次・二次・三次救急医療機関の役割が説明できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
2)	福島の災害から学ぶ	① 1) 災害医療の在り方を概説できる。 2) DMA Tの活動について説明できる。 3) 東日本大震災での災害医療の在り方を理解できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 1) 災害時におけるトリアージについて説明できる。		

科目・コース（ユニット）名：救急・災害医療

英語名称：Emergency and Disaster Medicine

7. 医学/科学の発展への貢献				
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。				
		②	1) 国際標準化された心肺蘇生ガイドラインを概説できる。 2) 心肺蘇生における胸骨圧迫、薬剤投与などのエビデンスの成り立ちを説明できる。	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。

科目・コース（ユニット）名： 老年医学

英語名称： Geriatric medicine

【担当責任者】 濱口杉大、大平弘正

【連絡先】 総合内科(内線：3264) 024-547-1933/fmu-gim@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年【学期】 前期【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義

【概要】

超高齢社会をむかえ、将来進む専門分野を問わず、直接的あるいは間接的に高齢者の医療と関わる機会はますます増えている。これまで生物学的寿命を延ばしたり、疾病を取り除いたりする医療が求められてきたが、死が回避できない人間のイベントであるため、高齢者は「いかに長生きするか」よりも「いかに死ぬか」を考えなければならず、身体的寿命でなく健康寿命の注目すべきときが来ている。同時に複数疾患をもち、症候が非典型となりやすい高齢者の臨床医学は、最先端医学では解決できない部分が多く、そのマネジメントは質の高く応用の広い臨床力と科学を越えた哲学、社会学、心理学など様々な学問の統合をもって行われる高度な作業であり、医師としての総合能力が問われる。

その基礎的知識を学習することは今後医師を目指すものにとって必須でありかつ貴重なことである。

【学習目標】

G10

超高齢社会で適切な医療をおこなうために、老年医学に対する基本的な知識を身に着ける。

SB0

老年症候群と高齢者総合機能評価（comprehensive geriatric assessment: GCA）の概要を述べることができる

フレイル・サルコペニアに対するリハビリテーションの重要性を述べることができる

ポリファーマシーへの対応を述べることができる

骨粗鬆症と骨折の予防について述べることができる。

ロコモティブ症候群の概要を述べることができる

認知機能低下と認知症の概要を述べることできる

高齢者の栄養管理のポイントを列挙できる

高齢者救急の問題点を述べることができる

高齢者の緩和ケア（腫瘍、非腫瘍）の特徴を述べることができる

高齢者の泌尿器科的問題の概要を述べることができる

高齢者の高血圧・脂質異常・糖尿病の管理の概要を述べることができる

多職種カンファレンスのマネジメントのやり方を述べることできる

地域包括ケア・在宅医療の実践の概要を述べることできる

終末期医療とアドバンスケアプランニングの重要性を列挙できる

【教科書】 老年医学系統講義テキスト 日本老年医学会

【参考書】 高齢者診療のトピック (日本内科学会雑誌 107 巻 12 号)

【成績評価方法】 原則的に出席の割合を基準とする。出席については、規定に基づき原則として、講義 (あるいは演習) は 2/3 以上の出席を要する。

【垂直的統合授業の実施内容】 該当なし

【水平的統合授業の実施内容】 該当なし

【授業スケジュール】

内 容	担当の先生	日 時		
		日	回	時間
老年医学総論	濱口 杉大	2023/7/11 (火)	4	13:00~14:00
高齢者の泌尿器科的問題	小島 祥敬 先生	2023/7/11 (火)	5	14:10~15:10
フレイル・サルコペニアとリハビリテーション	大内 一夫 先生	2023/7/11 (火)	6	15:20~16:20
ポリファーマシー	黒田 純子 先生	2023/7/18 (火)	4	13:00~14:00
高齢者の緩和ケア (腫瘍、非腫瘍)	佐藤 薫 先生	2023/7/18 (火)	5	14:10~15:10
多職種カンファレンスのマネージメント	中村 光輝 先生	2023/7/18 (火)	6	15:20~16:20
高齢者の高血圧・脂質異常・糖尿病の管理	島袋 充生 先生	2023/7/19 (水)	4	13:00~14:00
認知機能低下と認知症	後藤 大介 先生	2023/7/19 (水)	6	15:20~16:20
ロコモティブ症候群	箱崎 道之 先生	2023/7/21 (金)	6	15:20~16:20
高齢者の栄養管理	大平 弘正 先生	2023/7/24 (月)	4	13:00~14:00
老年症候群と高齢者総合機能評価	菅家 智史 先生	2023/7/24 (月)	5	14:10~15:10
高齢者救急	鈴木 剛 先生	2023/7/24 (月)	6	15:20~16:20
終末期医療とアドバンスケアプランニング	宮下 淳 先生	2023/7/25 (火)	5	14:10~15:10
地域包括ケア・在宅医療の実践	中村 光輝 先生	2023/7/26 (水)	4	13:00~14:00
骨粗鬆症と骨折	風間 順一郎 先生	2023/7/26 (水)	5	14:10~15:10

【担当教員】

教員氏名	職	所属
濱口 杉大	教授	総合内科
中村 光輝	助教	地域・家庭医療学講座
菅家 智史	講師	地域・家庭医療学講座
黒田 純子	薬剤部長	薬剤部
鈴木 剛	助手	救急医療学講座
風間 順一郎	教授	腎臓高血圧内科学講座
島袋 充生	教授	糖尿病内分泌代謝内科学講座

大内 一夫	准教授	リハビリテーション医学講座
大平 弘正	教授	消化器内科学講座
小島 祥敬	教授	泌尿器科学講座
宮下 淳	教授	白河総合診療アカデミー
箱崎 道之	教授	整形外科科学講座
佐藤 薫	講師	麻酔科学講座
後藤 大介	博士研究員	神経精神医学講座

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム				
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。				
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	△
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	△
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	△
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△
		③	利益相反について説明できる。	△
2. 生涯教育				

修得の機会はあるが単位認定に関係ない

<p style="text-align: center;">医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。</p>					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	△	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	
2)	国際人としての基礎	①	国内外からの最新の医学情報を収集し、発信できる英語力を有し、英語によるコミュニケーションができる。	△	
		②	英語以外の外国語の学習を通じて、異文化を知るための情報の入手、異文化の理解ができる。	△	
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュ	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	△	修得の機会はあるが単位認
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	△	

	ニケーション	③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	△	定に関係ない
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	△	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	△	
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	△	
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	△	
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	△	
		⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。	△	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリ	①	生命科学を理解するための基礎知識	●	実践の基礎となる知識を示せることが単

	キュラム参照)				位認定の要件である
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化)	●	
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝	●	
		③	個体の反応(微生物、免疫・防御、薬物)	●	
		④	病因と病態(遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍)	●	
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	●	
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療	●	
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療	●	
		⑧	全身におよぶ生理的変化(成長と発達、加齢・老化と死)	●	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法	●	
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	●	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	△	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	△	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	△	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	△	

7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	△	
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	△	
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。	△	
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	●	
6. 医療と社会・地域(福島をモデルとした地域理解)					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	実践の基礎となる知識を示
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	△	

		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	せることが単位認定の要件である
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	△	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	△	
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。	●	
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。	●	
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	●	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	●	
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	

2)	福島から 世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。	●
		②	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。	●

科目・コース（ユニット）名： 臨床遺伝学
英語名称：Clinical genetics

【担当責任者】 渡邊尚文（産科婦人科学講座・准教授）

【連絡先】 産科婦人科学講座・医局：024-547-1290 内線：2372, E-mail:t-wata@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年【学期】 前期・後期(?) 【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義／実習

【概要】 臨床遺伝学とは、細胞生物学、分子生物学、遺伝子情報の解析技術といった基礎的な遺伝医学の理論や技法を、遺伝性疾患の診断・治療・予防など臨床へ応用する学問領域である。講義で遺伝性疾患について学び、実習で遺伝カウンセリングの体験とレポートの作成を行う。

【学習目標】

一般目標

1. 遺伝学の基礎と臨床に関する十分な素養を備え、ゲノムの多様性に基づく個体の多様性、遺伝子変異・染色体異常と疾患の発生との関連を理解する
2. 遺伝カウンセリングの実習を通じて、臨床における遺伝医療の実践を体験する。

行動目標

1. 遺伝医療を理解し説明できる。
2. 家系図を理解し作成できる。
3. 染色体異常について理解し説明できる。
4. 出生前診断について理解し説明できる。
5. Mendel (メンデル) 遺伝の様式を説明でき、代表的な遺伝性疾患を列挙できる。
6. 非メンデル遺伝の形式をとる主な疾患について、その機序を概説できる。
7. 多因子遺伝による疾患・体質を列挙し、その特徴を理解できる。
8. 遺伝医療における倫理的配慮と遺伝カウンセリングについて理解し実践できる

【教科書】

1. トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版 メディカルサイエンスインターナショナル 11,000円
2. 新遺伝医学やさしい系統講義 19講 メディカルサイエンスインターナショナル 5,060円

【参考書】

1. 遺伝医学への招待改訂第6版 南光堂 2,200円

2. コルフ臨床遺伝医学 原書4版 丸善出版 7,700円
3. 診療・研究にダイレクトにつながる 遺伝医学 羊土社 4,730円

【成績評価方法】

- 第4学年次前期末(進級試験、○×問題100題)
- 出席については、規定に基づき原則として、講義あるいは演習は2/3以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

- 1時限の講義で解説される内容は膨大であり、各自知識の整理は自主的に行う必要がある。
- 講義はプリントおよびスライドを主に用いて行われるが、不明な点は講義の中での質問などにより明らかにしておく必要がある。
- 講義への積極的な出席を期待する。
- 遺伝カウンセリングの体験は、ロールプレイ形式で行う。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

- ロールプレイ形式による遺伝カウンセリングの演習を行う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/7/14	金	2	(講) 遺伝医療総論、家系図作成	渡邊尚文
2	2023/7/14	金	3	(講) 染色体異常と出生前診断	渡邊尚文
3	2023/7/21	金	2	(講) メンデル遺伝と単一遺伝子疾患	渡邊尚文
4	2023/7/22	金	3	(講) 非メンデル遺伝と多因子遺伝病	福島明宗
5	2023/9/19	火	4	(講) 遺伝医療における倫理的配慮と遺伝カウンセリング	渡邊尚文
6	2023/9/22	金	2	(講) 遺伝カウンセリングの演習	渡邊尚文、他
7	2023/9/22	金	3	(講) 遺伝カウンセリングの演習	渡邊尚文、他

【担当教員】

教員氏名	職	所属
渡邊尚文	准教授	産科婦人科学講座
福島明宗	教授	岩手医科大学・臨床遺伝科

門馬智之	准教授	消化管外科学講座
佐藤真紀	講師	小児科学講座
岡野舞子	助教	産科婦人科学講座
福田冬馬	助手	産科婦人科学講座
大越千弘	助手	産科婦人科学講座

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	△	修得の機会があるが単位認定には関係ない
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	△	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	△	
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	△	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	△	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するた	④	1. ゲノムの多様性に基づく個体の多様性を説明できる。	●	実践の基盤となる

<p>めの知識 (コアカリキュラム参照)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2. 単一遺伝子疾患の遺伝様式を説明し、代表的な疾患を列挙できる。 3. 染色体異常による疾患の中で主なものを挙げ、概説できる。 4. ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ、概説できる。 5. エピゲノムの機序及び関連する疾患を概説できる。 6. 多因子疾患における遺伝要因と環境要因の関係を概説できる。 7. 薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる 	<p>知識を示せることが単位認定の要件である</p>
	<p>⑦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団遺伝学の基礎として Hardy-Weinberg の法則を概説できる。 2. 家系図を作成、評価 (Bayes の定理、リスク評価) できる。 3. 生殖細胞系列変異と体細胞変異の違いを説明でき、遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。 4. 遺伝情報の特性 (不変性、予見性、共有性) を説明できる。 5. 遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。 6. 遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮を説明できる。 7. 遺伝医学関連情報にアクセスすることができる。 8. 遺伝情報に基づく治療や予防をはじめとする適切な対処法を概説できる。 	<p>●</p> <p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である</p>

科目・コース（ユニット）名： 症候論とケーススタディ
英語名称：Clinical Reasoning & Case Study

【担当責任者】 島袋充生（糖尿病内分泌代謝内科学講座）、風間順一郎（腎臓高血圧内科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

【連絡先】 igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年 【学期】 前期 【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義／演習

【概要】 職業訓練と位置付けられるこのユニットは、（１）症候論、（２）多職種連携授業、（３）痛みから成る。

これまでは病気について「疾患名→病態→症状・身体所見・検査所見」の流れで学習してきた。しかし、臨床現場では、患者さんが訴える症状（symptom）から疾患を想起し、病歴や観察した兆候（sign）を基に疾患の同定（診断diagnosis）を行う思考が必要になる。症候論ではコア・カリキュラムであげられている主要37症候について、診断を確定させるまでの論理的アプローチ法を修得する。尚、一部の授業を、グループワークを基盤とするTBL(team-based learning)で行う。グループメンバーと協働しながら、チーム医療に必要な責任ある態度を身に着けて欲しい。

更に、患者さんのケアには、医学的な根拠に加えて患者さんの社会的・心理的背景を踏まえた判断が必要になる。多職種連携授業では、看護学部生と合同で行うケーススタディを介して、患者中心の医療を実践するためには異なる専門職の視点からの多角的検討が必要であることを学ぶ。

なお、症候の中には、様々な部位・疾患で起きる痛みが含まれる。痛みの発生メカニズムや慢性化のメカニズム、そして痛みに対する治療、特に慢性化した痛みに対する多職種による集学的アプローチについても学習する。

【学習目標】

（１）症候論

1. 主訴・症状から可能性のある疾患を想起できる
2. 経過を基に、想起した疾患の重みづけ（頻度、重症度、緊急度）ができる
3. 必要な身体診察項目を挙げることができる
4. 身体所見を解釈できる
5. 診断に必要な検査を、優先順位を考慮してあげることができる
6. 検査所見を解釈できる
7. 得られた情報から考えられる診断を、要約してプレゼンテーションできる
8. ルールを順守し、課題解決に向けてチームに貢献できる

(2) 多職種連携授業

1. 患者の社会的・心理的背景を踏まえて診療方針を考えることができる
2. 最良の診療方針を選択するために、他職種とお互いの知識、情報、考えを交換することができる

(3) 痛み

1. 痛みの分類をできる。
2. 主観的な症状である痛みをどのように評価するかを説明できる。
3. 痛み、特に慢性痛に対する治療について説明できる。

【教科書】 指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか」野口善令、福原俊一 著 医学書院
- ・「内科診断学」福井次矢、奈良信雄 編集 医学書院
- ・「内科学」矢崎義雄 総編集 朝倉書店
- ・「ハリソン内科学」福井次矢、黒川清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価方法】

履修規定に基づき、2/3以上の授業への出席を以て評価の対象とする。

評価は、①授業態度、②授業時間内の課題と試験（TBLのIRAT、GRAT、確認テストを含む）③提出物（期限内の提出の有無と内容）を基に総合的に判断する。

【学習上の注意事項】

TBL、多職種連携授業は、事前学習を前提とする。事前学習課題は授業の約1週間前に開示する。

【垂直的統合授業の実施内容】

【水平的統合授業の実施内容】「症候論」は、疾患ごとに修得した知識を横断的に駆使しなければならない点で統合的内容である。痛みについては、整形外科、神経精神科、麻酔科の視点から概観する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】症候論の一部は、アクティブラーニングの理論に基づき、team-based learning(TBL)の形式で行う。

【授業スケジュール】

内容、時間配分、担当講座を記す。

授業スケジュールの詳細は、令和5年4月以降に別途通知する。

時間数	内 容	担当講座
1	(講) オリエンテーション	医療人育成・支援センター
2	(講) 鑑別のための問診	総合内科学講座
3	(演) カルテの書き方	地域・家庭医療学講座
30	(TBL) 症候論	医療人育成・支援センター 各疾患担当講座
22	(講) 症候論	循環器内科学講座 血液内科学講座 消化器内科学講座 リウマチ膠原病内科学講座 腎臓高血圧内科学講座 糖尿病内分泌学内科学講座 呼吸器内科学講座 脳神経内科学講座 神経精神医学講座 肝胆膵・移植外科学講座 産科婦人科学講座 救急医療学講座 脳神経外科学講座 整形外科科学講座 泌尿器科学講座 眼科学講座 耳鼻咽喉科学講座 皮膚科学講座 リハビリテーション医学講座
6	(演) 多職種連携授業	医療人育成・支援センター 看護学部 保健医療科学部
6	(講) 痛み	整形外科科学講座

【担当教員】

令和5年4月以降に別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○	
		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	自己啓発と自己鍛	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	○	基盤となる態度、スキ

	錬				ルを示せることが単位認定の要件である
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
2)	医療チームでのコミュニケーション	③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）	○	
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	○	
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療	○	
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療	○	
		⑧	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法	○	
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	
5. 診療の実践					

患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	○	単位認定の要件である
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない

科目・コース（ユニット）名：臨床実習入門
英語名称：Introduction to Medical Training

【担当責任者】木村隆（外科研修支援担当）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、
濱口杉大（附属病院総合内科）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4年 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義／実習

【概要】診療参加型臨床実習に必要とされる臨床技能の修得を確実にするための学習ユニットである。Student doctor として参加型臨床実習を行うためには、このコースで学ぶ全ての臨床スキル（手技・面接技術・態度）を身に付けていなければならない。しかし、臨床スキルを修得する上で最も重要なことは、何のためにその操作をその手順で行うのか、理論的背景を理解していることである。

【学習目標】

診療参加型臨床実習を行うにあたって必要とされる臨床技能を、それぞれの目的・意味を理解した上で実践できる。

1. 診断のための適切な医療面接ができる。
2. 全身（頭頸部、胸部、腹部、四肢・脊柱、神経系、バイタルサイン、直腸、乳房）の系統的な診察ができる。
3. 基本的な救命救急処置ができる。
4. 基本的検査手技（採血、心電計装着）を行える。
5. 基本的処置とそのための清潔操作ができる。
6. 英語による初診患者の医療面接ができる。

【教科書】

1. 「臨床実習開始前の共用試験」第8版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）—配布予定
2. 診療参加型臨床実習および臨床実習開始時に必要とされる技能と態度（教育・学習用 DVD）
URL—大学 HP Moodle からアクセス可能
3. 「診察と手技がみえる Vol.1」古谷伸之編集 MEDIC MEDIA—要購入（医療人育成・支援センターから貸し出し可能4冊まで）

【参考書】

「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」車谷典男、古家仁監修 診断と治療社

【成績評価方法】

- ・履修規定に則り、5分の4以上の授業への出席を以て評価の対象とする
- ・出席率と授業態度（使用物品の取り扱い・時間・身だしなみ・ルールの遵守を含む）を評価する

【学習上の注意事項】

Moodle 上にある DVD「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」を必ず視聴し、授業には、予め教科書 1, 2 の該当部分を読んでから臨むことやむを得ない理由で欠席する場合には、予め大学に連絡すること。

【垂直的統合授業の実施内容】

【水平的統合授業の実施内容】全ての診療科の診察に必要な基本的な手技を学ぶ。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

【授業スケジュール】

実施する内容と担当講座を示す。

日程及、班編成、担当教員については別途資料を配布する。

時間(分)	内 容	担当講座
60	(講・演) 消毒と滅菌	手術部
60	(講) 医療面接	小児科学講座
400	(実) 医療面接	医療人育成・支援センター
600	(実) 医療面接 SP 演習	医療人育成・支援センター
200	(講・実) 四肢と脊柱	整形外科学講座
600	(実) 採血	医療人育成・支援センター
200	(講・実) 乳房診察	乳腺外科学講座
205	(実) 心電計装着	循環器内科学講座
200	(実) 直腸診	消化管外科学講座
200	(実) 清潔操作・ガウンテクニック	消化管外科・外科学講座
200	(実) 腹部診察	消化器内科学講座
200	(実) バイタルサインの取り方	腎臓高血圧内科学講座
200	(実) 神経系の診察	脳神経内科学講座
400	(実) 頭頸部の診察	耳鼻咽喉科学講座講座 眼科学講座
400	(実) 胸部診察	呼吸器内科学講座 循環器内科学講座

320	(実) 心配蘇生	救急医療学講座
1320	(講・演) 英語による医療面接	医療人育成・支援センター

【担当教員】

令和5年4月以降別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定には関係ない

3)	自己啓発 と自己鍛 錬	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行 い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自 身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学 習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の 領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践 に活用ができる。					
2)	医療を実 行するた めの知識 (コアカ リキュラ ム参照)	⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	○	模擬的な問 題解決に知 識を応用で けることが 単位認定の 要件である
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基 本的診療技能)	○	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切 で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取でき る。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	
9)	基本的臨 床手技の 実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本 的臨床手技を適切に実施できる。	○	模擬的診療 を実践でき ることが単 位認定の要 件である
10)	根拠に基 づいた医 療(EBM)と 安全な医 療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（医療と社会）【医学4】

英語名称：medical care and society

【担当責任者】緩和医療：佐藤薫（麻酔科学講座）、臨床倫理：福田俊章（人間科学講座：生命倫理学分野）

【開講年次】 4年, 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義(グループ・ディスカッションを含む)

【概要】

医療は人の社会的な営みという広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日は医療技術の進歩の側面を追い求めるあまり、患者・家族の個人的な精神性や社会性についてはおざなりになってきたと考えられる。日本においては病気を抱える患者・家族に対しての全人的ケアをになう緩和医療の広がりが国策の一つとなっているが、福島ではまだ浸透しているとは言いがたい状況である。「緩和医療」の授業では、医療にたずさわる前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には日々の医療現場で、あるいは先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業では、患者および家族の立場を理解した上で日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことの出来る場としたい。

【学習目標】

緩和医療

- 1) 全人的な医療を理解し、説明ができる。
- 2) 緩和医療とはなにかを理解し、説明ができる。
- 3) 包括的ながん医療を理解し、説明ができる。
- 4) がん性疼痛の薬物療法とオピオイドについて理解し、説明することができる。
- 5) 悪い知らせを患者に伝える際のコミュニケーション技術について理解し、その要点を説明することができる。

臨床倫理

- 1) 臨床倫理に関する基本的事項を説明できる。
- 2) 先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- 3) 患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- 4) チーム医療の重要性について説明できる。
- 5) 研究倫理に関する基本的事項について説明できる。

【教科書】指定しない。

【参考書】

緩和医療

- ・「トワイクロス先生の緩和ケア」医学書院 2018年 Robert Twycross, Andrew Wilcock (武田文和・的場元弘監訳)
- ・「がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか」医学書院・2007年

臨床倫理

- ・A.R. ジョンセンほか (赤林朗・大井玄監訳) 『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ (第5版)』新興医学出版社・2006年
- ・G.E. ペンス (宮坂道夫・長岡成夫訳) 『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みすず書房・2000年
- ・赤林朗編『入門・医療倫理 I (改訂版)』勁草書房・2017年
- ・樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法 (第2版)』有斐閣・2012年

【成績評価方法】

緩和医療

基本的には、出席と授業ごとの感想やレポートを提出していれば合格点とする。グループワークが中心の授業もあり、その場合は他人の意見を共有しながら自身の意見もしっかりのべることができることが最低限必要である。講義室にいても授業に参加しない、発言しない、他の生徒がグループディスカッションできない様な授業態度をとるものは落第点となる可能性がある。

臨床倫理

出席状況と授業参画態度 (毎時間のコメントペーパーの提出と記載内容) に基づいて行う。コメントペーパーは、講師の先生のお話を踏まえた上で記載されているか、グループ・ディスカッションを踏まえて記載されているか、などの観点から評価する。

なお、出席については、規定に基づき原則として、講義 (あるいは演習) は2/3以上の出席を要する。緩和医療と臨床倫理、それぞれについて出席要件を満たしていなければならない。

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】

生命倫理 (1年生)、死生観の歴史 (1年生)、薬害から学ぶ (1年生)

【水平的統合授業の実施内容】

医療と法（4年生）、臨床実習入門（4年生）

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

- ・哲学分野の講師を招き、死を意識することから生についてグループ・ディスカッションを通して深く探求していく。
- ・患者の立場の講師を招き、医療を患者の視点から考える場を受講生に提供する。

緩和医療

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/5/23	火	1	(講) 緩和医療総論	佐藤 薫
2	2023/5/23	火	2	(ビデオ鑑賞) 家で家族を看取ること	高橋 まり
3	2023/5/23	火	3	(質疑応答) 家で家族を看取ること	高橋 まり
4	2023/5/30	火	1	死と生の希望について考える	竹之内裕文 内宮美知子
5	2023/5/30	火	2	死と生の希望について考える	竹之内裕文 内宮美知子
6	2023/5/30	火	3	死と生の希望について考える	竹之内裕文 内宮美知子
7	2023/6/6	火	1	在宅医療	橋本孝太郎
8	2023/6/6	火	2	がん性疼痛	佐藤 薫
9	2023/6/13	火	12	精神腫瘍学	三浦 至
10	2023/6/13	火	12	悪い知らせの伝え方	佐藤 薫

【担当教員】

教員氏名	職	所属
竹ノ内裕文	教授	静岡大学創造科学技術大学院・農学部
内宮 美知子	ご遺族	
高橋 まり	ご遺族	
橋本 孝太郎	医師	ふくしま在宅緩和ケアクリニック
三浦 至	准教授	福島県立医科大学心身医療講座
佐藤 薫	講師	福島県立医科大学麻酔科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

在宅医療、包括的緩和医療（緩和医療総論）、がん性疼痛などの症状コントロール、精神腫瘍学

臨床倫理

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	23/6/9	金	4	講義案内 (講) 臨床倫理入門①臨床倫理の基本概念	末永・福田
2	23/6/9	金	5	(講) セカンド・オピニオン	佐治重衡
3	23/6/9	金	6	(講) 医師のプロフェッショナリズム 【ZOOM 利用】	尾藤誠司
4	23/6/16	金	4	(講) がん患者の支援	菅原 裕
5	23/6/16	金	5	(講) 臨床の場から考える： 日々の臨床問題	藤原 大
6	23/6/23	金	4	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題①	松本亜樹子
7	23/6/23	金	5	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題②	松本亜樹子
8	23/6/30	金	4	(講) 薬害被害者のお話を聞く① 【ZOOM 利用】	井上昌和 浅川身奈栄
9	23/6/30	金	5	(講) 薬害被害者のお話を聞く② 【ZOOM 利用】	井上昌和 浅川身奈栄
10	23/7/7	金	4	(講) 治験をめぐる倫理問題	稲野彰洋
11	23/7/7	金	5	(グループ・ワーク) 臨床倫理入門② 4 分割法の活用	末永・福田
12	23/7/14	金	4	(グループ・ワーク) 若年性認知症の告知①	福田・末永
13	23/7/14	金	5	(グループ・ワーク) 若年性認知症の告知②	福田・末永
14	23/7/21	金	6	(講) 研究倫理入門：倫理審査委員会の役割	小早川雅男
15	23/7/21	金	4	(グループ・ワーク) 模擬倫理委員会	小早川・福田・末永

【担当教員】

教員氏名	職	所属
尾藤誠司	臨床研修科医長	東京医療センター
菅原 裕	がん相談支援センター	がん患者の支援
藤原 大	リハビリテーション科 診療部長	坂総合病院
松本亜樹子	理事	ファウンダー
井上昌和		全国薬害被害者団体連絡協議会
浅川身奈栄		全国薬害被害者団体連絡協議会
稲野彰洋	副センター長	医療研究推進センター・臨床研究センター
佐治重衡	教授	腫瘍内科学講座
小早川雅男	教授	臨床研究推進センター
末永恵子	講師	人間科学講座
福田俊章	准教授	人間科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

セカンド・オピニオン、医師のプロフェッショナリズム、日々の臨床問題、研究倫理入門、模擬倫理委員会

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	—	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		③	利益相反について説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	—	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
3. コミュニケーション					

患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。				
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加でき	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件

		る。		である
	④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
	⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。	—	

4. 知識とその応用

基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。

1)	医療を実行するための知識 (※②～⑩はコアカリキュラム参照)	①	生命科学を理解するための基礎知識	—	
		②	生命現象の科学(細胞と生物の進化)	—	
		③	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝	—	
		④	個体の反応(微生物、免疫・防御、薬物)	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	病因と病態(遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍)	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑦	人体各器官の疾患 診断、治療	—	
		⑧	全身性疾患の病態、診断、治療	—	
		⑨	全身におよぶ生理的変化(成長と発達、加齢・老化と死)	—	
		⑩	疫学と予防、人の死に関する法	—	

		⑪	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	—	
5. 診療の実践					
<p style="text-align: center;">患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。</p>					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	—	
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	—	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	—	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p style="text-align: center;">A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p style="text-align: center;">B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。		
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、	△	修得の機会はあるが 単位認定に関係ない

			行政の相談窓口など)を説明できる。		
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	—	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	—	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	△	修得の機会はあるが単位認定に関係ない
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	—	
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

科目・コース（ユニット）名：医療入門Ⅰ（プライマリ・ヘルス・ケアと地域医療）
英語名称：Primary Health Care and Community Medicine

【担当責任者】菅家智史

【連絡先】地域・家庭医療学講座（comfam@fmu.ac.jp）

【開講年次】4年，【学期】前期【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ヘルス・ケアを実践するには、家庭医療学の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、2018年度から「総合診療専門医」という名称で国を挙げて養成されることになったプライマリ・ヘルス・ケアの専門医が取り組む新しい医療について、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、家庭医療学を理解することは役に立ちます。

【学習目標】

- ①社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因(social determinant of health)）を概説できる。
- ②地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ③地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- ⑥医療保険、介護保険及び公費医療を説明できる。
- ⑦高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- ⑧医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携を説明できる。
- ⑨健康行動や行動変容を行う動機付けを概説できる。
- ⑩行動療法を説明できる。
- ⑪認知行動療法を説明できる。
- ⑫心理教育を説明できる。
- ⑬生活習慣病における患者支援（自律性支援）や保健指導を概説できる。
- ⑭高齢者総合機能評価(comprehensive geriatric assessment <CGA>)を実施できる。
- ⑮加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。
- ⑯高齢者の退院支援と介護保険制度を説明できる。
- ⑰在宅医療の在り方、今後の必要性と課題を概説できる。
- ⑱在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
- ⑲褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。
- ⑳在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。
- ㉑介護の定義と種類を説明できる。
- ㉒日常生活動作<ADL>（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
- ㉓地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。

【教科書】

- 1.マクウィニー家庭医療学 上巻・下巻 (ぱーそん書房)
- 2.医療大転換-日本のプライマリ・ケア革命- (ちくま新書)

【参考書】

- 1.患者中心の医療の方法 原著第3版 (羊土社)
- 2.家族志向のプライマリ・ケア (丸善出版)
- 3.診療ガイドラインが教えてくれないこともある (南山堂)
- 4.スタンダード家庭医療マニュアル (永井書店)

【成績評価方法】

出席については規程に基づき原則として、講義 (あるいは演習) は2/3以上の出席を要する。

1 コマにつき出席+課題 (小テスト) で10点満点 (出席と課題の配点は各担当教員による)

14コマ×10点=140点満点となり、6割 (84点) 以上で合格とする。

詳細については初回講義の冒頭で教員より説明する。

【学習上の注意事項】

特記なし。

【垂直的統合授業の実施内容】

「へき地医療とキャリア形成」の授業では、非常勤講師が臨床医学的側面と社会医学的側面を交えた統合的授業を行う。

【水平的統合授業の実施内容】

「地域包括ケアシステムと家庭医療」の授業では、生活相談員を非常勤講師としてお迎えし、他職種から視点を交えた統合的授業を行う。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

「世界の家庭医療、プライマリ・ヘルス・ケア、医療大転換」の授業において、当講座が取り組んでいる研究に触れる。特に、ここ数年で学会と医学雑誌に発表された多彩な研究 (医学生のアイデンティティ形成、医学教育での家庭医療実習の重要性、ジェネラリストとスペシャリスト、生活習慣病への行動科学的介入、プライマリ・ヘルス・ケア政策導入の国際比較、メンタルヘルスとプライマリ・ヘルス・ケア連携の国際共同プロジェクトなど) を紹介しながら、プライマリ・ヘルス・ケアの専門性の魅力を伝える。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/5/25	木	I	(講) 総合診療 家庭医療 プライマリ・ケアとは	菅家智史
2	2023/5/25	木	II	(講) 患者中心の医療の方法	豊田喜弘
3	2023/5/25	木	III	(講) 医師-患者のコミュニケーション	豊田喜弘
4	2023/5/26	金	I	(講) 複数の健康問題と包括的アプローチ	中村光輝
5	2023/6/1	木	I	(講) 高齢者ケアと人生の最終段階のケア	菅家智史

6	2023/6/1	木	Ⅱ	(講) 医療保険と介護保険	遠藤芽依
7	2023/6/1	木	Ⅲ	(講) 地域包括ケアシステムと家庭医療	遠藤芽依
8	2023/6/2	金	Ⅰ	(講) 家族志向ケアと在宅医療	中村光輝
9	2023/6/8	木	Ⅰ	(講) 予防・健康増進・行動変容	遠藤芽依
10	2023/6/8	木	Ⅱ	(講) へき地医療とキャリア形成	森冬人
11	2023/6/8	木	Ⅲ	(講) 世界の家庭医療、プライマリ・ヘルス・ケア、医療大転換	葛西龍樹
12	2023/6/15	木	Ⅰ	(講) 褥瘡の予防、評価、治療とチーム医療	遠藤芽依
13	2023/6/15	木	Ⅱ	(講) 家庭医の外来診療	豊田喜弘
14	2023/6/15	木	Ⅲ	(講) 健康の社会的決定要因 (social determinant of health)	豊田喜弘

【担当教員】

教員氏名	職	所属
菅家智史	講師	地域・家庭医療学講座/総合診療医センター
中村光輝	助教	地域・家庭医療学講座/総合診療医センター/医療人育成・支援センター/総合内科
豊田喜弘	助手	地域・家庭医療学講座
遠藤芽依	助手	地域・家庭医療学講座
葛西龍樹	名誉教授	地域・家庭医療学講座
森冬人	非常勤講師	喜多方市地域・家庭医療センター
早坂史恵	非常勤講師	介護付き有料老人ホーム シャローム

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

全て。

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	

3)	対人関係	③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
		①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。		
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。		
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。		
		③	利益相反について説明できる。		
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。		
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。		
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。		
2)	国際人としての基礎	①	国内外からの最新の医学情報を収集し、発信できる英語力を有し、英語によるコミュニケーションができる。		
		②	英語以外の外国語の学習を通じて、異文化を知るための情報の入手、異文化の理解ができる。		
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。		
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	●	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	●	
3. コミュニケーション					

患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。

1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。		
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意を払い、診療チームの一員として議論に参加できる。		
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。		
		⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。		

4. 知識とその応用

基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。

1)	医療を実行するための知識	①	生命科学を理解するための基礎知識		
----	--------------	---	------------------	--	--

	(準備教育モデル・コアカリキュラム参照)				
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化)		
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝		
		③	個体の反応(微生物、免疫・防御、薬物)		
		④	病因と病態(遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍)		
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	●	
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療		
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療		
		⑧	全身におよぶ生理的変化(成長と発達、加齢・老化と死)	●	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	△	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	△	
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	△	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	△	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。		

7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。		
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策 (標準的予防策: standard precaution) が説明できる。		
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		
6. 医療と社会・地域 (福島をモデルとした地域理解)					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	●	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源 (保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など) を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		

		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。		
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。		
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。		
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		
2)	福島から世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。		
		②	福島から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。		

科目・コース（ユニット）名：社会的コミュニケーション論
英語名称：Societal communication

【担当責任者】 田巻倫明

【連絡先】 田巻倫明：tamakit@fmu.ac.jp

竹林由武：ytake2@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】 前期 【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義

【概要】

臨床現場における患者や家族とのコミュニケーションのみならず、地域保健の観点から、医療者は社会やコミュニティにおけるステークホルダーとの円滑なコミュニケーション能力が求められる。本講義では、そのような社会的コミュニケーションの基礎を学び、人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について学ぶ。

【学習目標】

- 1) 社会的コミュニケーションの基礎を説明できる
- 2) 人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について説明できる。

【教科書】

授業中、必要に応じて担当の講師から紹介がある。

【参考書】

以下を参考図書とする。

1. 中谷内一也編：リスクの社会心理学 有斐閣
2. National Research Council 編、林裕造、関沢純監訳：リスクコミュニケーション 前進への提言

【成績評価方法】

成績評価は①出席状況、②授業態度、③レポートに基づき行う。①、②は各講義後のレスポンスカードの提出および内容で評価する。原則、出席は必須である。必要に応じてテストを行う可能性もある。

【学習上の注意事項】 特記事項なし

【垂直的統合授業の実施内容】 特記事項なし

【水平的統合授業の実施内容】

リスクコミュニケーションについて、放射線医療、放射線防護、地域保健、臨床心理、社会科学などの多様な分野にまたがる授業内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

本授業は、東日本大震災及び福島第一原発事故後に求められたリスクコミュニケーションに関する内容を含む。とりわけ、臨床的視点に加えて、社会的な対話のあり方について学習する授業となる。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/6/16	金	2	(講)序論・概要 ヘルスリテラシー	田巻倫明 後藤あや
2	2023/6/16	金	3	(講)ヘルスリテラシー	後藤あや
3	2023/6/23	金	2	(講)心理療法とコミュニケーションスキル	竹林由武
4	2023/6/23	金	3	(講)心理療法とコミュニケーションスキル	竹林由武
5	2023/6/30	金	2	(講)地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
6	2023/6/30	金	3	(講)地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
7	2023/7/7	金	2	(講)放射線リスクコミュニケーション	田巻倫明
8	2023/7/7	金	3	(講)放射線リスクコミュニケーション、全体のまとめ	田巻倫明

【担当教員】

教員氏名	職	所属
田巻倫明	教授	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
竹林由武	講師	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
後藤あや	教授	福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
越智小枝	准教授	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せること

					が単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	利益相反について説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に係らない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

			せることが単位認定の要件である
		④ 医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤ 社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療チームでのコミュニケーション	① 他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③ 他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	● 実践の基盤となる知識を示せること

					が単位認定の要件である
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。	●	実践の基盤となる知識を示

					せることが単位認定の要件である
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認

					定の要件 である
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を 理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理 的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思 考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生 み出す科学的思考ができる。	●	実践の基 盤となる 知識を示 せること が単位認 定の要件 である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明 できる。	●	実践の基 盤となる 知識を示 せること が単位認 定の要件 である
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立 て、それを解決するための方法と資源を指導・監督 のもとで見いだすことができる。	●	実践の基 盤となる 知識を示 せること が単位認 定の要件 である
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および 臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	実践の基 盤となる 知識を示 せること が単位認 定の要件 である

2)	福島から 世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

科目・コース（ユニット）名： 男女共同参画 医学4
英語名称： Gender Equality

【担当責任者】小宮 ひろみ

【連絡先】hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年 【学期】後期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習

【概要】

医師として生涯を通じたキャリア形成は重要な課題である。本講義では、男女共同参画やダイバーシティという観点から、医師として生涯にわたるキャリア形成のあり方を考える。また、卒後におこりうるライフイベントを想像し、より身近なこととして捉えられるようにグループ演習や先輩医師の体験談も交え、講義をすすめていく。

【学習目標】

《学習総合》

- 1) 医師として男女共同参画・ダイバーシティの意義を考えることができる。
- 2) ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
- 3) 医師として生涯学習することが重要であることを理解できる。

《グループ学習》

- 1) 医師のキャリア形成の中でおこりうるライフイベントを多面的に想像できる。
- 2) 他者の考えを理解し、柔軟に考えることができる。

【教科書】指定なし

【参考書】指定なし

【成績評価方法】

成績評価はキャリア未来年表提出で行う。

出席はやむを得ない事情がない限り必須である。

【学習上の注意事項】

学生は7人前後のグループとなり、指定箇所にて行う。シナリオに対して、グループに分かれ、学生が主体的に討論を行う。まず、グループで討議し、選択肢及びその理由を記載した後、全体の発表会に続き、総合討論・総括を行う。

シナリオ作成者：小宮ひろみ 蓮沼直子（広島大学医学部附属医学教育センター）

行動目標：卒後のライフイベントをシュミレーションすることにより、その中で自らのキ

キャリアをどのように形成していくべきか考えることができる。

【垂直的統合授業の実施内容】

医学部1年生の「男女共同参画」授業においては、男女共同参画社会・ダイバーシティの意味と医学部卒業後のキャリアパスを学ぶ。

【水平的統合授業の実施内容】 該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2023/9/29	金	4	(演) シナリオを用いたグループ演習	小宮ひろみ 蓮沼直子
2	2023/9/29	金	5	(講) 先輩医師の体験談を聞く	小宮ひろみ 蓮沼直子
3	2023/9/29	金	6	(講) 男女共同参画・ダイバーシティを考える	小宮ひろみ 蓮沼直子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学附属病院 性差医療センター
蓮沼直子	教授	広島大学医学部附属医学教育センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム	
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。	

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	●	

科目・コース（ユニット）名： 医療入門Ⅱ
英語名称： Introduction to Medical Practice Ⅱ

【担当責任者】 伊関憲（救急医療学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

【連絡先】 igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年 【学期】 後期 【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義／演習

【概要】 GBT と OSCE により基本的医学知識と技能が一定水準に達していると認定されてから、student doctor としての臨床実習（BSL）が始まる。しかし、予測不可能な臨床現場で診療に参加するためには、更に必要なものがある。医療入門Ⅱは、どの科に行っても必要とされる基本スキル、安全に医療を行うためのルール、研修後まで見据えた心構えを最終確認するための集中授業である。

【学習目標】

1. 目指す医師像を考え、それに向けた BSL の目標を持つ。
2. 電子カルテの適切な場所に診療情報を入力できる
3. 「医療安全」「院内感染防止対策」「医療情報の取り扱い」の遵守事項を説明できる。
4. 基本的な検査データを系統的に読んで、陰性所見、陽性所見を説明することができる。
5. 「地域医療における医療機関の役割」「輸液の基本」を概説できる。
6. データを基に病態と診断の推論を簡潔にプレゼンテーションできる。
7. 相手に行動変容を促す、または、悪い知らせを伝える際に留意すべきことを説明できる。

【教科書】 指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学」野口善令、福原俊一著 医学書院
- ・「がん医療におけるコミュニケーション・スキル」内富庸介 藤森麻衣子著 医学書院
- ・「プレゼンテーションの具体的なポイントとコツ」天理よろづ相談所病院レジデント著 三輪書店

【成績評価方法】

全授業の 3 分の 2 以上の出席を以て評価の対象とする。

評価は、授業への出席、演習の成果・態度を総合して判断する。

【学習上の注意事項】

BSL 及び post-CC OSCE で必要となる規範と臨床技能を対象とする授業であることを自覚して臨んでほしい。

【垂直的統合授業の実施内容】「医療安全」「院内感染対策」「地域医療における医療機関の役割」は、基礎医学、社会医学、臨床医学の内容を網羅する。「医療面接アドバンス」は、臨床医学と行動科学を統合した内容である。

【水平的統合授業の実施内容】「症例のプレゼンテーション」「腹部画像診断」「胸部レントゲン読影の基本」「輸液の基本」「神経画像診断」「心電図の読み方」は、疾患ごとに学修してきた内容を、領域横断的に扱うものである。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

【授業スケジュール】

授業タイトル、必要コマ数、担当予定教員を示す。

時間割及び担当教員の詳細は令和5年4月以降に通知する。

回数	内 容
1	(講) BSL で留意すべき医療情報の取り扱いについて
1	(講) 電子カルテの操作法
6	(演) 電子カルテ演習
2	(講) 臨床実習の学習リソースについて
1	(講) BSL と post-CC OSCE
1	(講) 会津医療センターBSL オリエンテーション
1	(講) 医療安全 1
1	(講) 医療安全 2
1	(講) 保険診療について
1	(講) 院内感染対策
2	(演) 実習を通して学ぶ院内感染防止対策の実際
4	(講) 症例のプレゼンテーション
1	(講) 医療面接アドバンス① (行動変容を促す)
1	(講) 医療面接アドバンス② (悪い知らせを伝える)
2	(講) Evidence-based medicine (EBM)
1	(講) 輸液の基本
1	(講) 胸部レントゲン読影の基本
1	(講) 腹部画像診断

1	(講) 神経画像診断
1	(講) 心電図の読み方
1	(講) 血液ガスと乳酸値
3	(講)(演) 医療倫理
1	(講) 地域医療における医療機関の役割
1	(講) 福島県の医療の現状/卒後研修と専門研修医
1	(講) 研修医から見たBSLの過ごし方
1	(講) キャリアパス

【担当教員】

令和5年4月以降に別途通知する。

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム				
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。				
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	○
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○

態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である

		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	○	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	○	
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	○	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	○	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	

		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意を払い、診療チームの一員として議論に参加できる。	●	
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識	⑥	人体各器官の疾患 診断、治療	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療	○	
		⑧	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法	○	
		⑩	診断の基本（症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能）	○	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	を示せることが単位認

					定の要件で ある	
3)	検査の選 択・結果 解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の 解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療 を实践でき ることが単 位認定の要 件である	
4)	臨床推 論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患 を推論できる。	○		
5)	診断と治 療法の選 択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	○		
6)	診療録作 成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○		
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案がで きる。	○		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間 に提示することができる。	○		
10)	根拠に基 づいた医 療(EBM)と 安全な医 療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。	○		
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的 根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	○		
6. 医療と社会・地域(福島をモデルとした地域理解)						
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療 ・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備がで きている。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携 について学び、説明ができる。</p>						
1)	医療と地 域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を 理解している。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある	
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明でき る。	●		
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専 門職種の業務活動を理解できる。	●		

		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	●	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	●	
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	